

## 第四回委員会議録

日時	令和2年2月25日 13:30～16:30		場所	現地（旧齋藤家別邸）
出席者	委員	栗野隆委員長・金出ミチル委員・松本恵樹委員・山崎誠子委員（欠席）		
	アドバイザー	青木達司（文化庁文化財第二課）（欠席）		
	オブザーバー	渡邊裕司（新潟県教育庁文化行政課）		
	新潟市関係課担当職員	中央区地域課：奥村・高見 中央区建設課：小松・牧野		
	指定管理者	西澤・前田・旗野・中川・長谷川		
	事務局	新潟市歴史文化課	小沢（欠席）・廣野・小島・小池・押木・古俣	
	(株)文化財保存計画協会	矢作（記録）赤澤・佐藤 高崎（高崎設計室有限会社）		

内容： 第四回委員会議録（委員等からの指摘事項）

### 報告事項

#### （１）庭園に関する調査結果について

- ・ 竜安寺垣の更新前のものはいつ誰が作ったか分かるか。（松本）  
→分からない（事務局）
- ・ 茶室の西側に山灯籠があったと思うが、それについての復元検討はしないのか。（松本）  
→現状は火袋が無い状態である。火袋の復元根拠が不在であり、来園者の目に触れる箇所ではないため検討を行っていない。（事務局）  
→検討対象以外の灯籠についても火袋が欠損しているため、どのように対象を決めたのか説明を記載してほしい。理由が明確であれば問題ない。（松本）
- ・ 透水性調査について、調査地点の選び方については排水不良の地点を選んだということか。（松本）  
→基本的には水たまりになるような箇所としているが、芝生の復元検討箇所や健全と考えられる箇所についても調査地点とし、比較や今後の整備に活用できる調査とした。（事務局）
- ・ 主屋前の手水鉢の水をだすバルブから水が漏れて溜まっていた痕跡があったが、調査から何か分かったか。（松本）  
→今回の透水性試験からは特に把握していない。（事務局）
- ・ 茶室の内露地の蹲についても水の滞水があったが今後調査の予定はあるか。（松本）  
→必要だとは考えている。埋蔵物調査の対応も必要になるため、事務局内で検討する。今回は地盤面の透水性の把握を目的として調査を行った。（事務局）
- ・ 粘性土が確認された層はどのくらいの厚さだったか。（栗野）  
→はっきりと層になっていない箇所もあるが、層として確認できるところは最も厚くて4～5cm確認できた。（事務局）

#### （２）建造物に関する調査結果について

- ・ 屋根について前回の修理までは全面葺き替えはなく、部分的な補修としてきたが、今回屋根の瓦をとって状況を確認できたと思うが、今回これだけの数を見て、手の違いなど所見はあるか。（金出）  
→屋根の職人に作業と写真撮影等をお願いしたため、1箇所以外は確認ができていない。（事務局）  
→まだ足場がない状態なので難しいと思う。これから分かることが多くあると思う。（金出）
- ・ 建物によっては縦方向の重ねを大きくして葺き足を短くして重厚感をだすというのがある。（金出）
- ・ 土蔵の屋根は左官の漆喰塗で防水層を作るが、砂漆喰でのせていたのか。また工事の際に確認したい。（金出）

- ・ 四阿の元々茅葺だったのが杉皮葺に替えられたのは茅葺だと軒が厚くなり高くなるため、加賀田家時代にマツの干渉があり、建物を小さくしようとしたのではないかと思った。マツについて幹からどれくらいの成長具合か分かるか。茅葺だったら干渉していそうか分かるか。(金出)  
→杉の人工林であれば計算方法である程度分かるが、造園樹木については生育環境や地下水の影響で成長具合が異なるので樹齢を推定するのは困難である。(栗野)
- ・ 茅葺の方が15-20年おきで葺き替えなければいけないから手間がかかるため変えたのか、すでにマツの影響があったのかと思った。これから解き明かすことができれば建物が健全になるだけでなく履歴についても分かってくると得るものが多くなるだろう。(金出)  
→現状は茅葺の上に杉皮をのせているだけで、下に茅葺は残っている。ただし現在は箱棟のようになっており、元々の茅葺と箱棟の関係は分からない。(事務局)